

おおいた活性化フォーラム

訪日市場の変化と経済効果向上への課題

1. 訪日市場の拡大と変質

※インバウンドとは？

UNWTOの旅行市場の分類

- アウトバウンド・・・国外旅行
(Outbound Tourism)
 - インバウンド・・・訪日旅行
(Inbound Tourism)
 - ドメスティック・・・国内旅行
(Domestic Tourism)
- インターナル・・・国内旅行（広義）
(Internal Tourism)

1-1 訪日市場の量的動向

訪日外客数と旅行消費額の動向

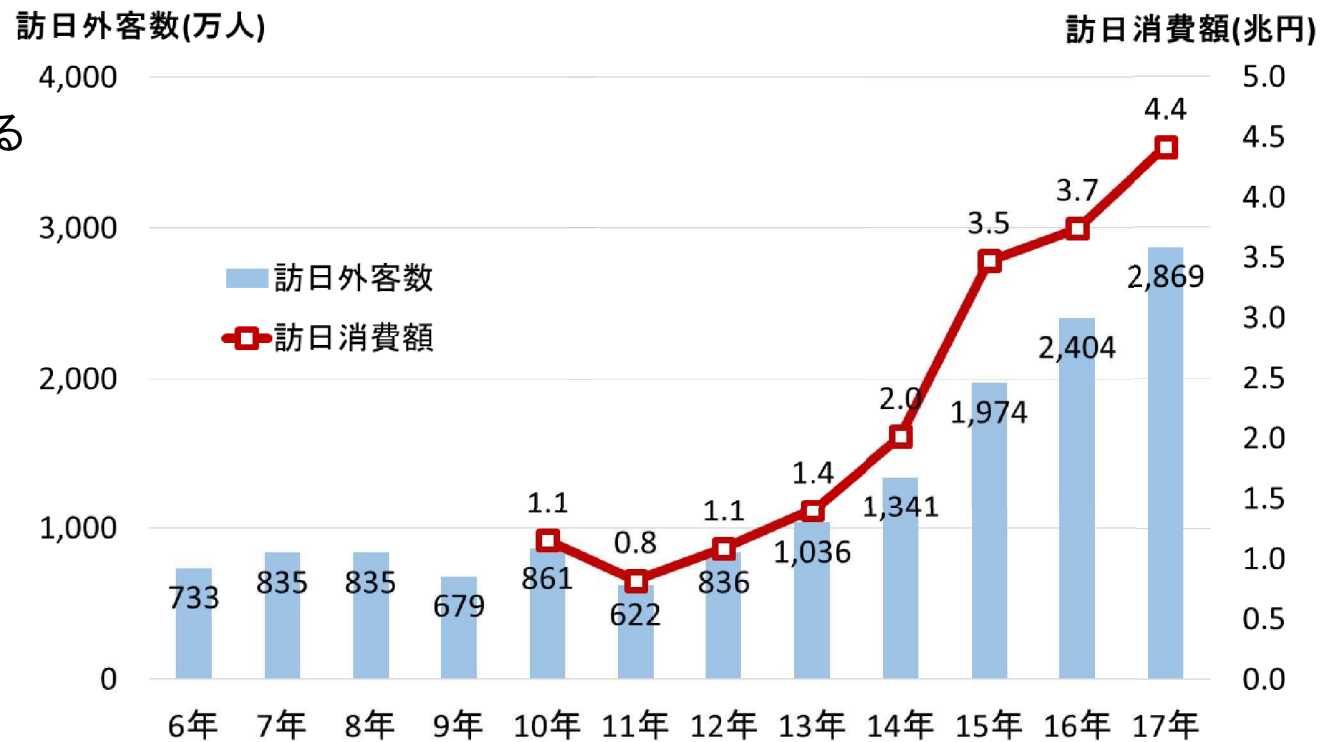
直近の市場動向

①人数の推移

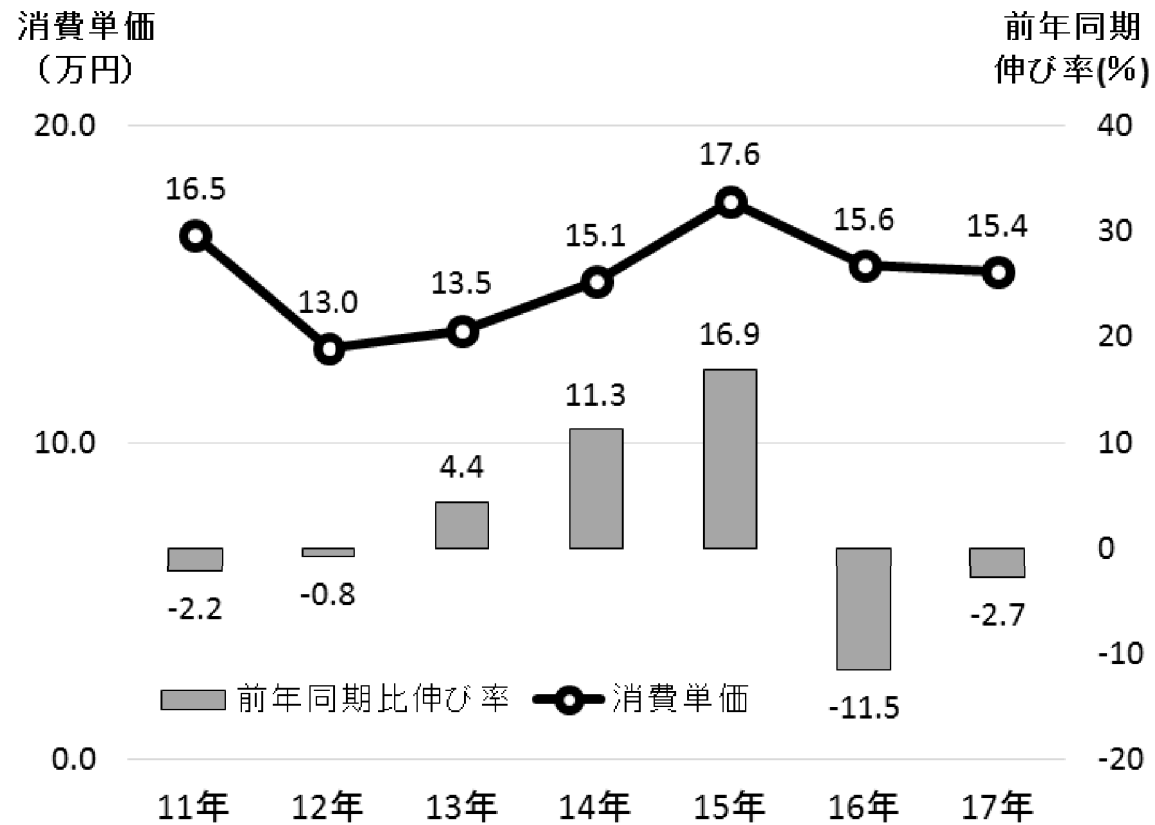
- ・17年の外客数は2,869万人
- ・前年比19.3%増、465万人増加

②消費額の推移

- ・18年は4.4兆円
- ・消費単価が1.3%減
- ・前年比17.8%増に留まる

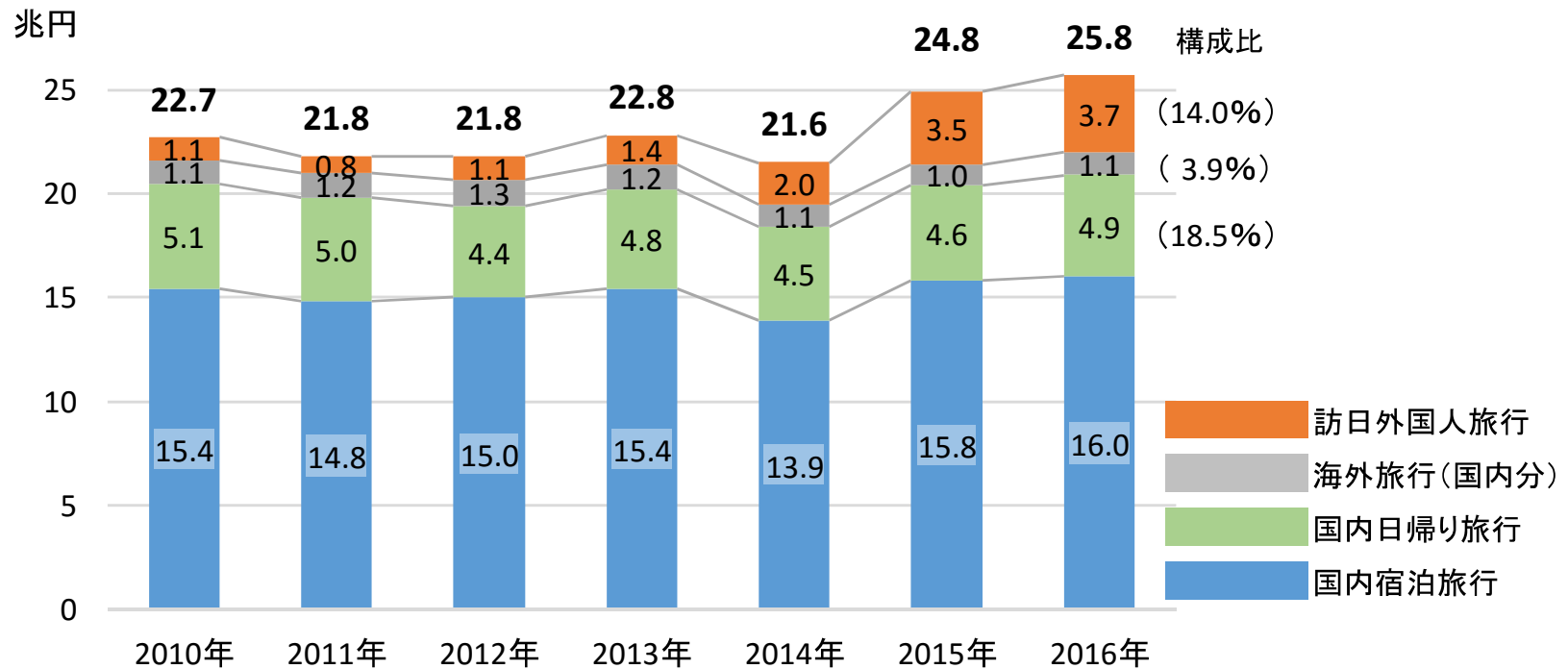


消費単価の伸び悩み



訪日市場の存在感の高まり

我が国における旅行消費額に占める訪日消費が占める比率の上昇続く

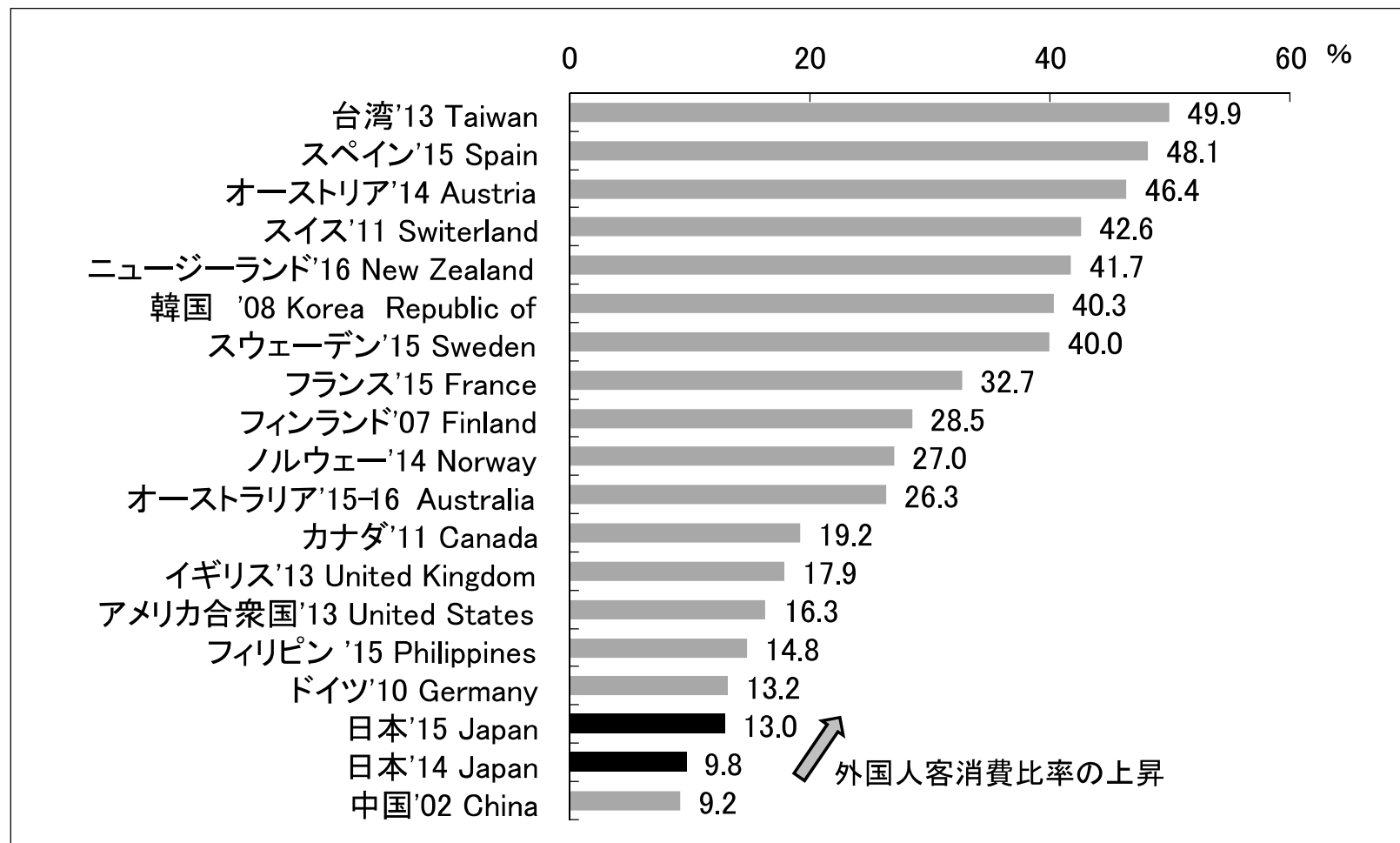


資料:「旅行・観光消費動向調査 平成28年年間値(確報)について」観光庁

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
国内宿泊旅行	15.4	14.8	15.0	15.4	13.9	15.8	16.0
国内日帰り旅行	5.1	5.0	4.4	4.8	4.5	4.6	4.9
海外旅行(国内分)	1.1	1.2	1.3	1.2	1.1	1.0	1.1
訪日外国人旅行	1.1	0.8	1.1	1.4	2.0	3.5	3.7
合計	22.7	21.8	21.8	22.8	21.6	24.8	25.8

成長産業としての期待

訪日外国人消費額比率の国際比較



資料: 各国TSA資料を基に作成

観光立国推進基本計画の政府目標値

「明日の日本を支える観光ビジョン」目標値を採用

	2015年	2020年	2030年
訪日外国人旅行者数(万人)	1,974	4,000	6,000
訪日外国人旅行消費額(億円)	34,771	80,000	150,000
地方部での外国人延べ宿泊者数(万人泊)	2,519	7,000	13,000
外国人リピーター数(万人)	1,162	2,400	3,600
日本人国内旅行消費額(兆円)	18.5	21.0	22.0

平成28年3月30日策定

- 「観光ビジョン」が総理官邸主導で打ち出されたことは画期的。
- 予算面、総合政策といった点でこれまでと異なる観光政策の展開。
- 赤坂迎賓館公開やホテル容積率緩和、着陸料軽減などから着手。
その後も民泊新法、ランドオペレーター登録制度、空港民営化など進む。
- 目標達成の可否は、為替や災害等の社会・経済要因にも左右される。
- 計画達成へのボトルネックは、航空、宿泊、交通、人材であり、短期的には比較的余裕のある「地方」を活用することが必須となる。
- 中長期的には、生産の基礎となる官民の適正投資と、安定雇用の促進が必要。
- いずれにせよ「需要」を踏まえた着実な施策展開が必要とされる。

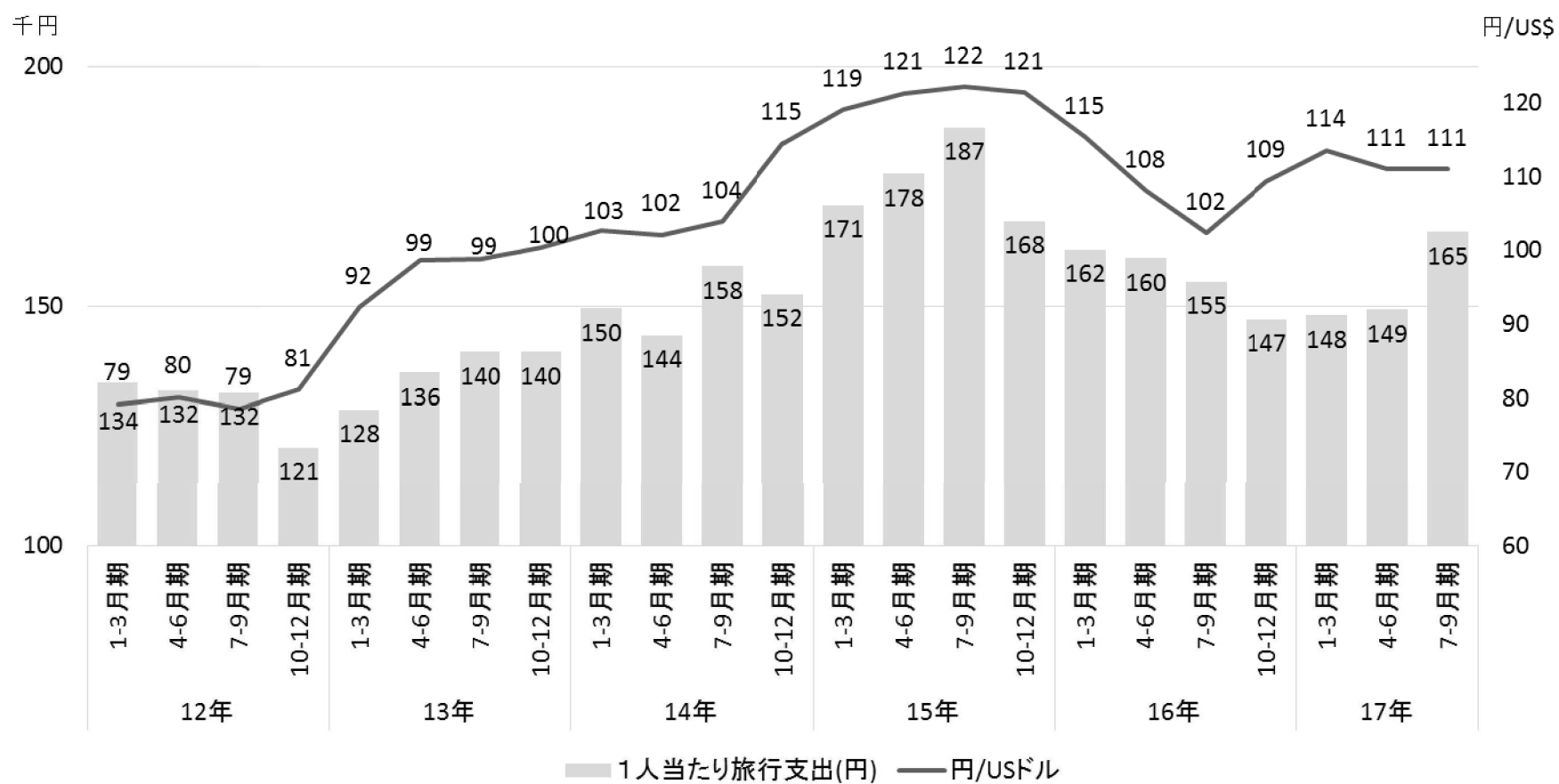
市場拡大の要因

- 発地国の経済・社会動向
- 為替動向
- 査証制度緩和
- 航空路線拡大
- 宿泊容量の拡大
- クルーズ寄港増加
- 旅行商品の流通、OTA
- VJ (Visit・Japan) 事業
- SNSとFIT化

(負の要因)

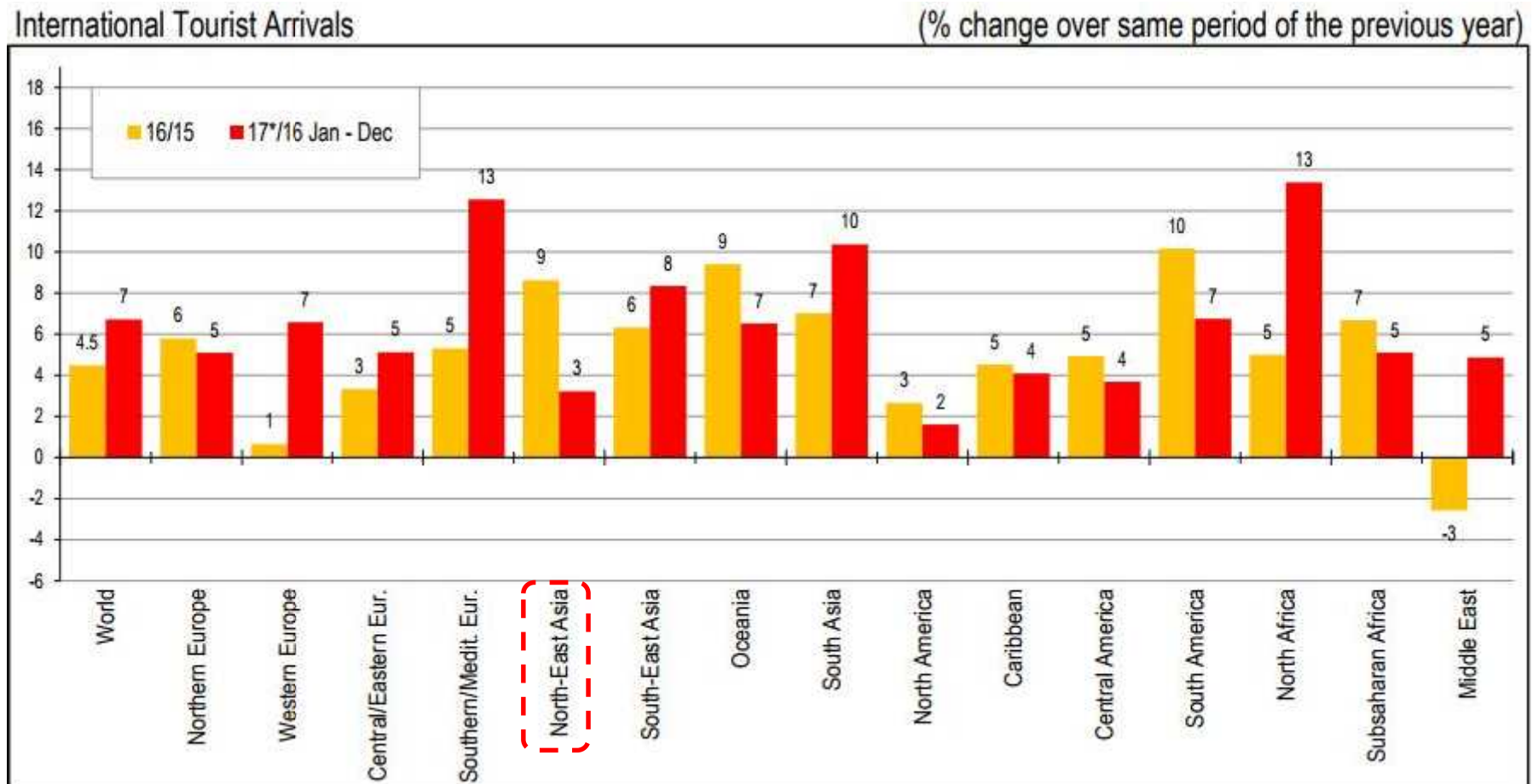
- 経済危機、災害・事件

為替レートと旅行支出の関係



国際観光市場の動向

2017年の国際観光客数(到着客数)の前年比伸び率



Source: World Tourism Organization (UNWTO) ©

1-2 訪日市場の質的動向

○市場セグメントの分類軸は？

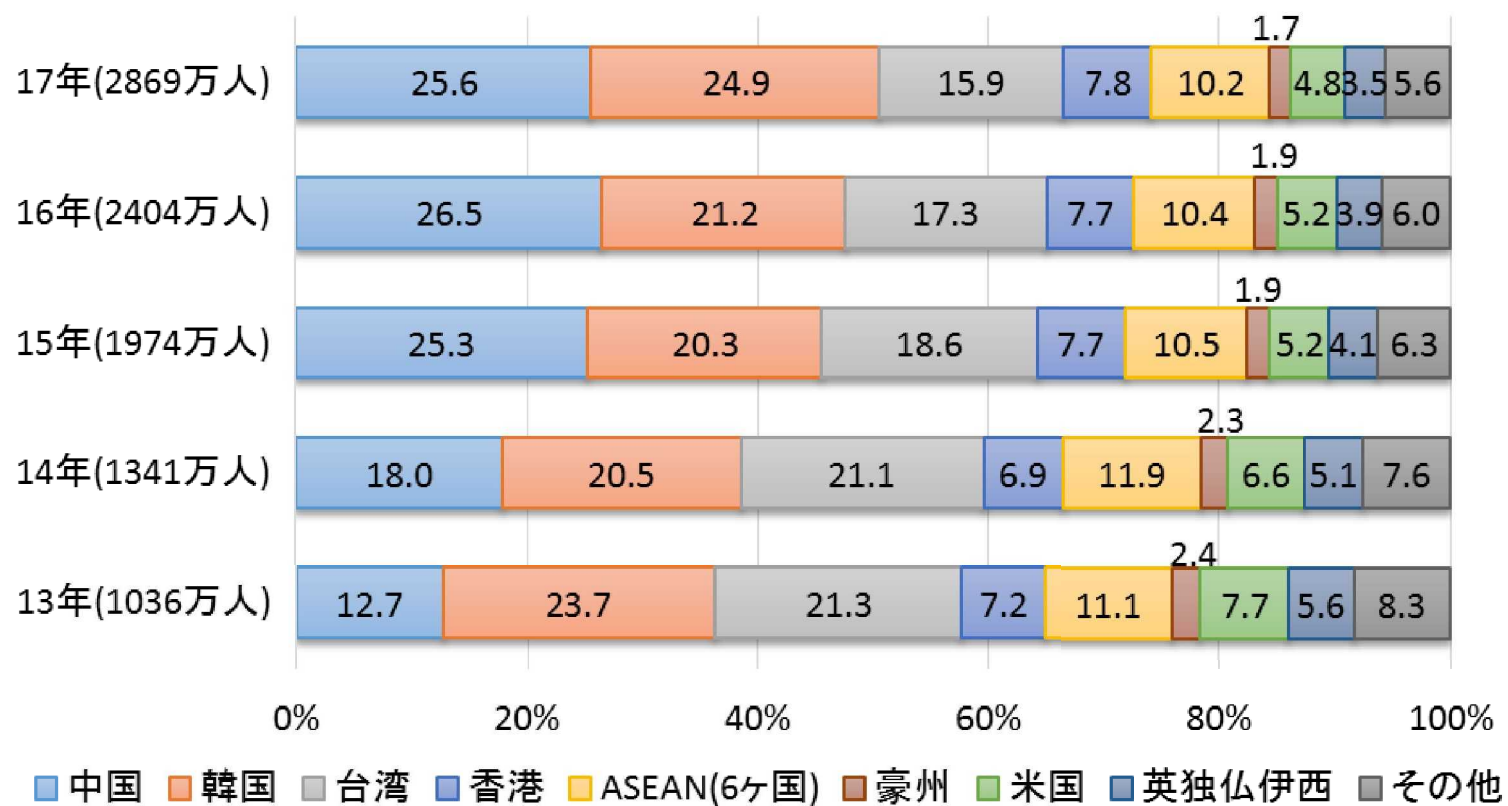
“International Recommendations for Tourism Statistics 2008” UNWTO
で解説されている統計の分類軸

国籍・発地国、交通手段、発着空海港、訪問先、目的、活動、泊数、
宿泊施設、年・月・四半期別、費目別消費額

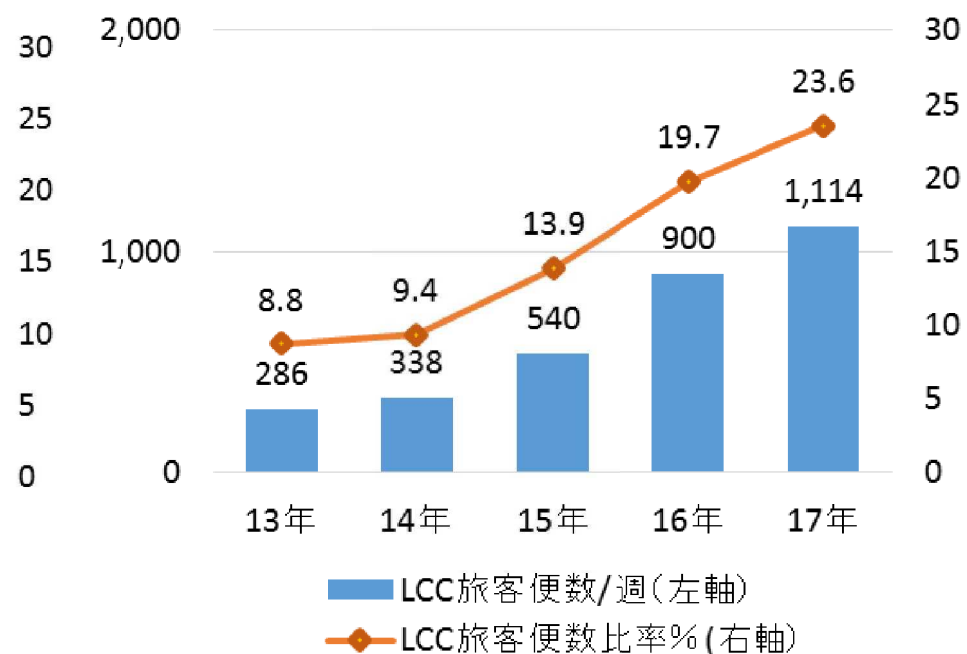
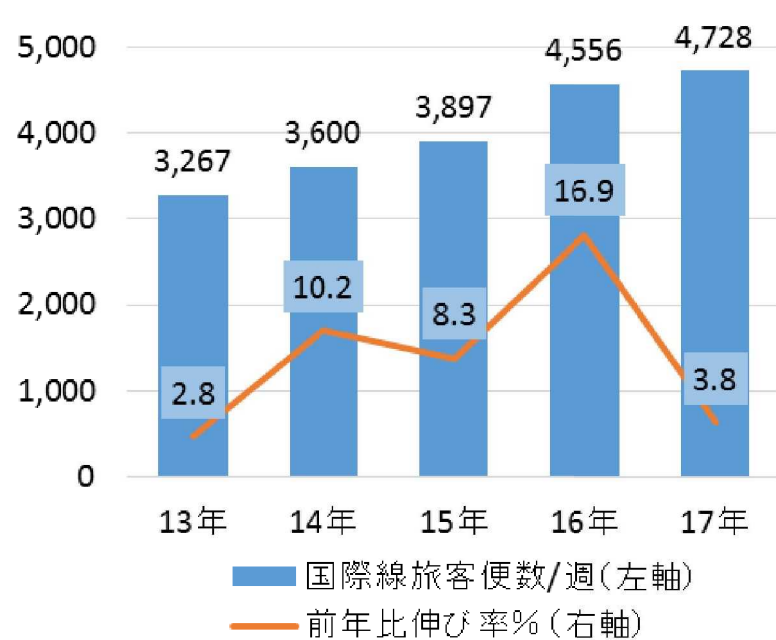
その他、重要な軸として統計で調査される分類

- ・ 訪問回数、同行者、同行者数
- ・ 旅行形態、予約・購入方法
- ・ 情報源（発地・着地）
- ・ 購入率、購入者単価と単価の分布、購入場所
- ・ 満足度・再訪意向・不満点

訪日外国人客数の国別構成比(13年～17年)

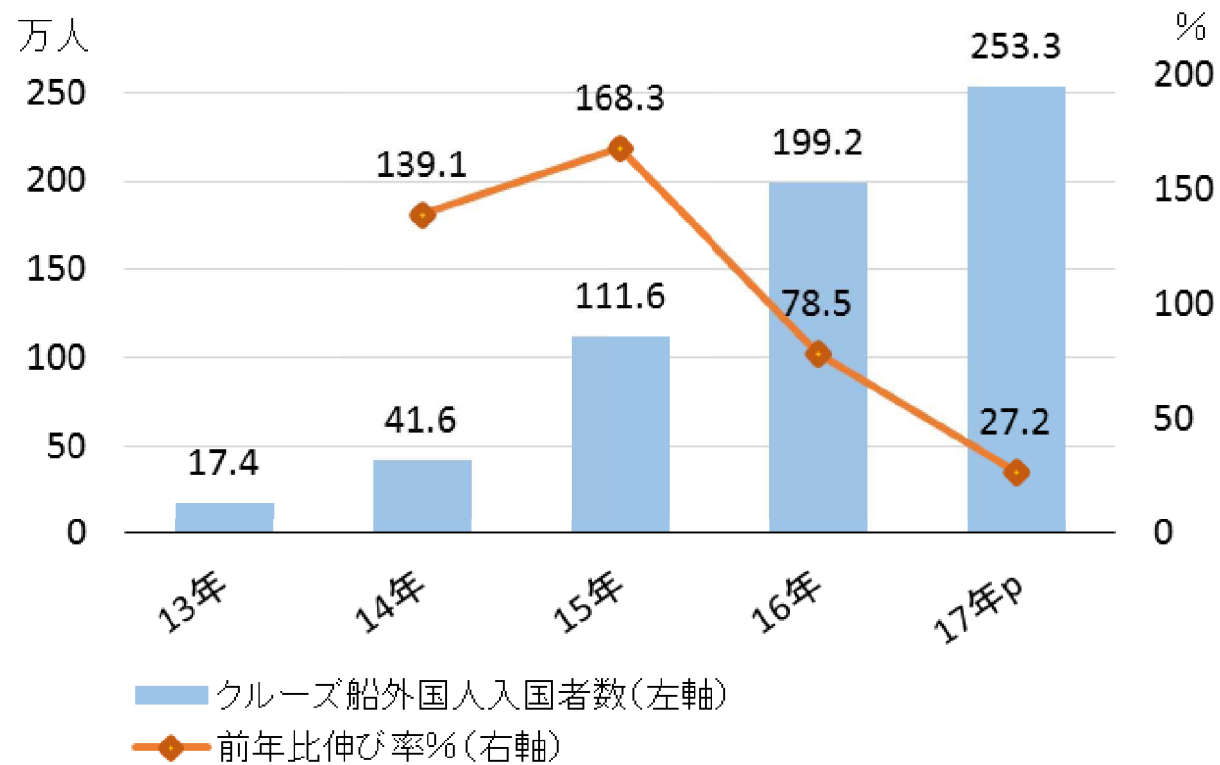


渡航手段の変化



資料:「2017夏期スケジュール 国際線定期便の概要」国土交通省航空局

クルーズ客の増加(2013年～17年)



資料:国土交通省港 湾局

2010年～2017年 外国船社及び日本船社が運航するクルーズ船の寄港回数

順位	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年(速報値)	
	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
1	横浜	122	横浜	119	横浜	142	横浜	152	横浜	146	博多	259	博多	328	博多	328
2	神戸	103	神戸	107	博多	112	神戸	101	博多	115	長崎	131	長崎	197	長崎	267
3	博多	84	博多	55	神戸	110	石垣	65	神戸	100	横浜	125	那覇	193	那覇	224
4	長崎	54	那覇	53	長崎	73	那覇	56	那覇	80	那覇	115	横浜	127	横浜	178
5	鹿児島	52	石垣	49	那覇	67	東京	42	長崎	75	神戸	97	神戸	104	石垣	132
6	那覇	52	名古屋	28	石垣	52	長崎	39	石垣	73	石垣	84	石垣	95	平良	130
7	石垣	47	宮之浦	23	名古屋	43	博多	38	小樽	41	鹿児島	53	平良	86	神戸	117
8	名古屋	27	長崎	21	別府 [大分県]	34	名古屋	35	函館	36	佐世保	36	鹿児島	83	鹿児島	108
9	宮之浦	25	広島	19	鹿児島	34	二見 [東京都]	29	鹿児島	33	名古屋	34	佐世保	64	佐世保	84
10	東京	22	鹿児島	18	大阪	33	広島	26	名古屋	30	広島	32	広島	47	八代	66
	広島	22														
	その他	319	その他	316	その他	405	その他	418	その他	475	その他	488	その他	693	その他	1133
	合計	929	合計	808	合計	1105	合計	1001	合計	1204	合計	1454	合計	2017	合計	2765

資料:国土交通省港湾局

博多港は寄港数トップも頭打ちに。長崎、横浜、石垣、平良、鹿児島、八代などに分散

国籍別出国者数の構成(空海港別)

2016年	総数	国別 構成比	中国	台湾	香港	韓国	米国	オースト ラリア	ASEAN (6ヶ国)	英独仏伊 西	その他
総数	2,301.7	100.0	22.3	17.4	7.6	23.2	5.5	1.9	11.3	4.4	6.5
成田(空港)	681.5	100.0	20.3	16.0	6.1	10.6	10.9	3.3	15.1	6.0	11.7
関西(空港)	604.9	100.0	25.4	18.7	9.1	26.9	2.5	1.0	9.8	2.9	3.9
羽田(空港)	327.2	100.0	25.6	9.6	4.1	15.0	7.8	3.4	15.8	10.3	8.4
福岡(空港)	163.1	100.0	9.6	15.9	8.5	54.3	1.2	0.4	6.4	1.1	2.7
那覇(空港)	133.5	100.0	17.6	30.7	13.2	32.2	1.4	0.3	1.6	1.0	2.0
中部(空港)	113.7	100.0	44.4	14.6	8.7	10.5	2.2	0.4	12.2	2.0	5.0
新千歳(空港)	113.5	100.0	11.8	28.5	10.8	27.2	1.7	1.4	15.3	1.2	2.0
海港	59.7	100.0	0.8	0.4	0.3	88.7	3.2	2.0	0.7	1.6	2.3
その他空港	104.6	100.0	32.7	30.3	10.2	21.8	1.2	0.2	1.4	0.9	1.3
北海道運輸局計	132.4	100.0	15.1	31.9	9.4	24.0	1.9	1.4	13.3	1.1	2.0
東北運輸局計	7.3	100.0	10.5	47.8	0.7	33.7	1.6	0.1	4.4	0.6	0.6
関東運輸局計	1,016.6	100.0	22.4	13.9	5.4	11.9	9.9	3.3	15.2	7.3	10.6
北陸信越運輸局計	12.8	100.0	28.4	49.2	0.4	17.8	0.8	0.1	1.7	0.4	1.2
中部運輸局計	125.3	100.0	47.1	14.4	7.9	10.6	2.1	0.4	11.1	1.8	4.6
近畿運輸局計	608.7	100.0	25.2	18.6	9.0	27.2	2.5	1.0	9.7	2.9	3.9
中国運輸局計	25.0	100.0	13.7	10.8	15.4	51.4	1.8	0.5	2.0	1.8	2.5
四国運輸局計	8.8	100.0	30.6	28.1	12.7	24.2	1.0	0.5	0.6	1.1	1.2
九州運輸局計	228.7	100.0	8.3	13.0	8.1	60.9	1.2	0.4	4.7	1.0	2.3
沖縄総合事務局計	136.1	100.0	17.3	30.7	13.6	31.7	1.6	0.4	1.6	1.1	2.1
大分(空港)	3.2	100.0	0.1	8.2	0.0	90.1	0.6	0.1	0.3	0.1	0.3

資料:「出入国管理統計」法務省

訪問先の動向

【延べ宿泊客数】

(単位:万人)

全宿泊客	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年1-9月
全 国	41,723	43,950	46,589	47,350	50,408	49,249	37,489
大分県	632	612	671	610	739	685	521
九州運輸局	4,637	4,650	4,869	4,937	5,415	5,187	4,130
外国人客	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年1-9月
全 国	1,842	2,631	3,350	4,482	6,561	6,939	5,799
大分県	36	31	41	40	77	83	96
九州運輸局	166	218	256	324	553	572	549
日本人客	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年1-9月
全 国	39,882	41,318	43,240	42,868	43,846	42,310	31,690
大分県	596	581	630	570	661	602	425
九州運輸局	4,471	4,432	4,612	4,613	4,862	4,615	3,581

【前年比伸び率】

全宿泊客	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年1-9月
全 国	-	5.3%	6.0%	1.6%	6.5%	-2.3%	-23.9%
大分県	-	-3.1%	9.6%	-9.1%	21.1%	-7.3%	-23.9%
九州運輸局	-	0.3%	4.7%	1.4%	9.7%	-4.2%	-20.4%
外国人客	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年1-9月
全 国	-	42.9%	27.3%	33.8%	46.4%	5.8%	-16.4%
大分県	-	-13.5%	32.0%	-2.3%	93.3%	6.9%	16.3%
九州運輸局	-	31.1%	17.7%	26.5%	70.5%	3.5%	-4.1%
日本人客	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年1-9月
全 国	-	3.6%	4.7%	-0.9%	2.3%	-3.5%	-25.1%
大分県	-	-2.5%	8.4%	-9.5%	16.0%	-8.9%	-29.5%
九州運輸局	-	-0.9%	4.1%	0.0%	5.4%	-5.1%	-22.4%

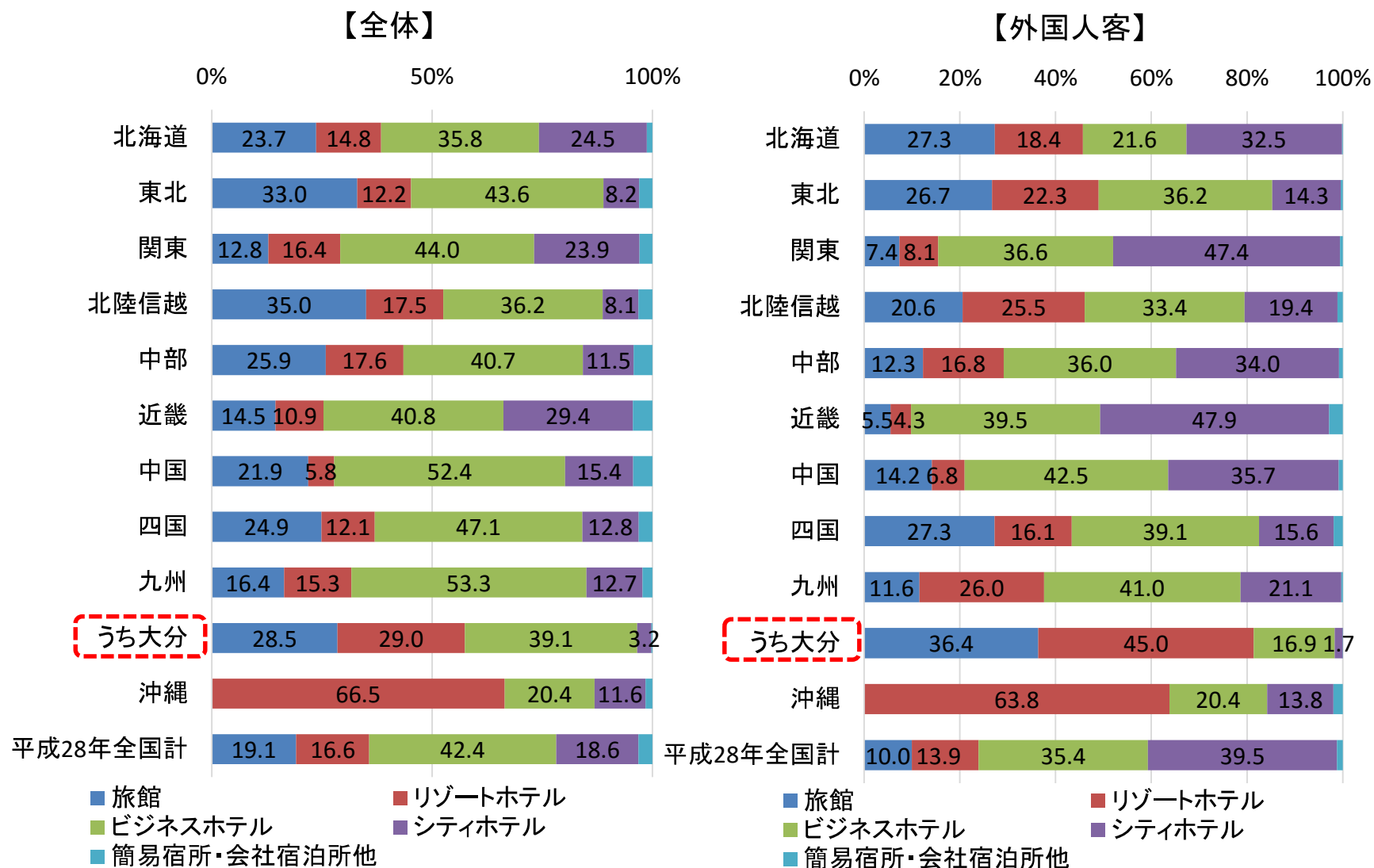
【外国人客比率】

外国人客比率	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年1-9月
全 国	4.4%	6.0%	7.2%	9.5%	13.0%	14.1%	15.5%
大分県	5.7%	5.1%	6.1%	6.6%	10.5%	12.1%	18.5%
九州運輸局	3.6%	4.7%	5.3%	6.6%	10.2%	11.0%	13.3%

資料：「宿泊旅行統計」観光庁

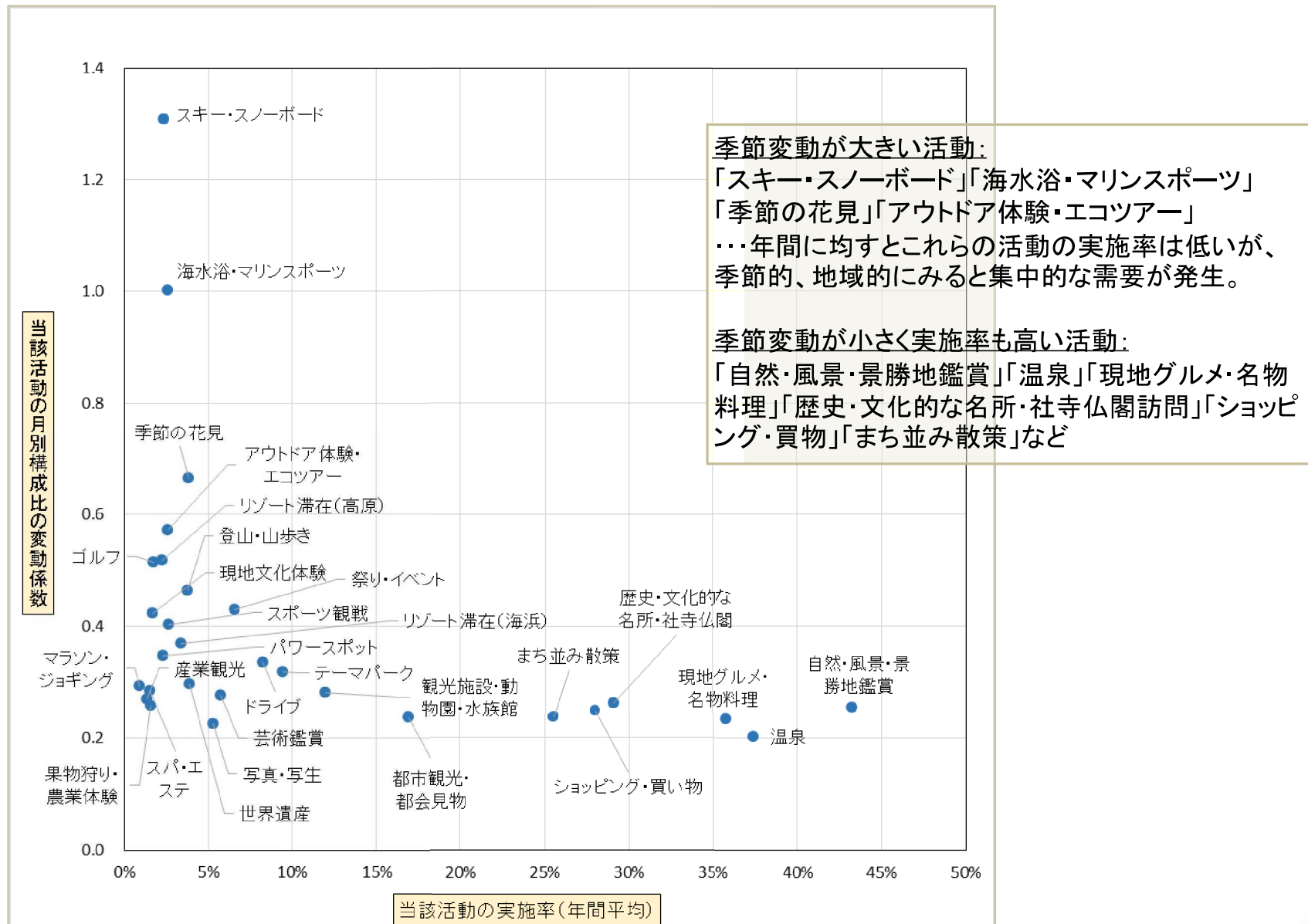
利用宿泊施設の動向

地域別・宿泊施設タイプ別の利用率(全宿泊客・外国人客)



資料：「平成28年宿泊旅行統計」観光庁

観光活動の実施率と月による偏り



資料:「2014年JTBF旅行実態調査」((公財)日本交通公社)

目的・旅行形態等の変化

訪日外国人の客層のFIT化と大衆化(15年と16年の比較)

調査項目(1/2)	2015年 構成比%	2016年 構成比%	増減%
観光・レジャー	69.5	72.8	3.3
親族・知人訪問	5.6	4.8	-0.8
ハネムーン	0.5	0.4	-0.1
学校関連の旅行	0.7	0.6	-0.1
スポーツ・スポーツ観戦	0.4	0.4	0.0
イベント	0.3	0.4	0.0
留学	1.4	1.4	0.1
治療・検診	0.1	0.1	0.0
インセンティブツアー	0.5	0.6	0.0
展示会・見本市	1.3	0.9	-0.3
国際会議	1.8	1.6	-0.2
企業ミーティング	5.4	4.6	-0.8
研修	2.4	2.2	-0.2
その他ビジネス	8.8	8.3	-0.4
トランジット	0.5	0.4	-0.1
その他	1.0	0.7	-0.3
団体ツアーでの来訪	25.6	20.6	-5.0
個人旅行向けパッケージ商品を利用	12.3	12.1	-0.2
個別手配	62.1	67.3	5.1
500万円未満	49.3	59.0	9.6
500万円以上1,000万円未満	29.0	25.6	-3.4
1,000万円以上2,000万円未満	14.9	10.6	-4.2
2,000万円以上3,000万円未満	2.8	2.1	-0.7
3,000万円以上	4.0	2.6	-1.4

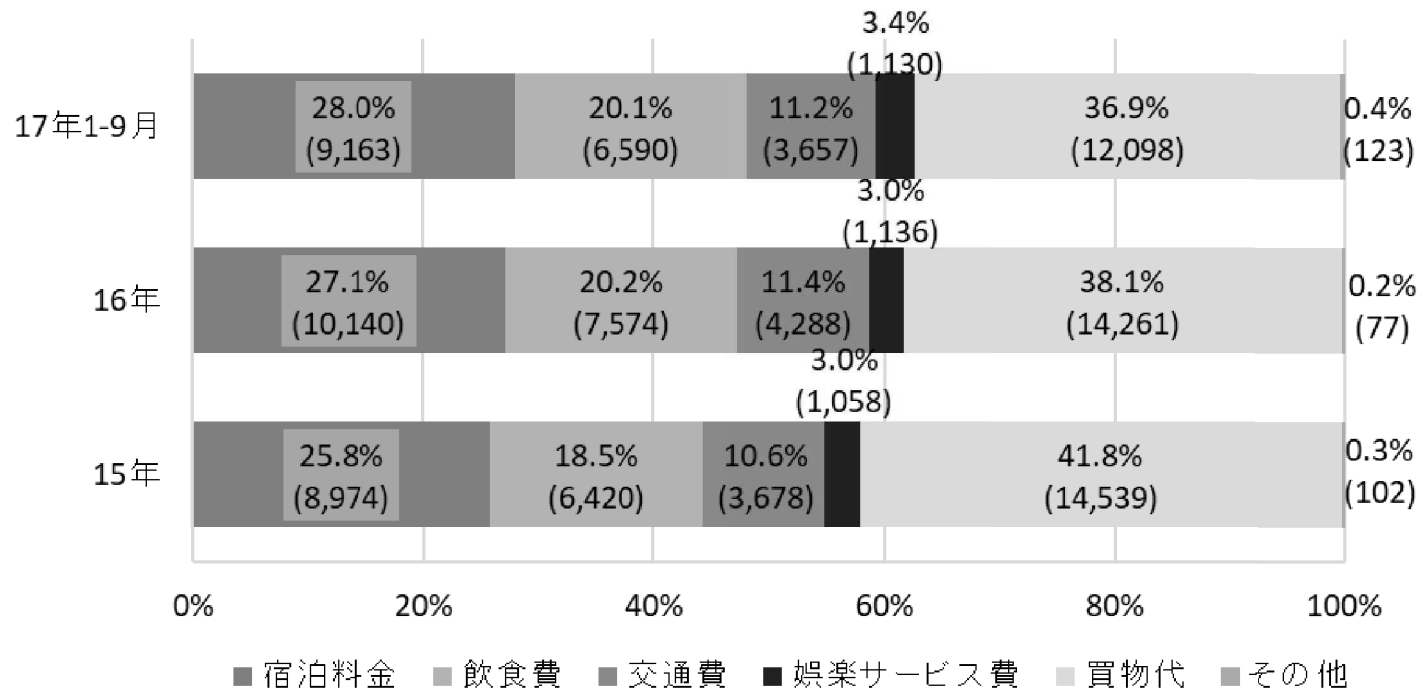
は16年に3%以上構成比が増加した項目

調査項目(2/2)	2015年 構成比%	2016年 構成比%	増減%
百貨店・デパート	60.3	57.6	-2.7
家電量販店	27.9	24.5	-3.4
ファッション専門店	21.0	18.2	-2.7
100円ショップ	19.5	19.3	-0.3
高速道路のSA・道の駅	5.8	5.1	-0.7
観光地の土産店	29.4	27.7	-1.8
宿泊施設	13.5	12.8	-0.8
スーパーマーケット	53.0	52.9	-0.2
コンビニエンスストア	59.8	63.0	3.2
ドラッグストア	56.4	59.8	3.4
ディスカウントストア	13.5	13.5	0.0
アウトレットモール	20.0	18.4	-1.6
都心の複合商業施設	14.6	16.3	1.7
その他ショッピングセンター	12.9	12.9	0.0
鉄道駅構内の店舗	11.0	10.4	-0.5
空港の免税店	61.8	61.8	0.0
その他	2.7	3.1	0.4
買い物はしなかった	2.8	2.5	-0.3
ホテル(洋室中心)	84.4	79.9	-4.5
旅館(和室中心)	22.2	20.5	-1.6
別荘・コンドミニアム	1.3	1.6	0.3
学校の寮・会社所有の宿泊施設	2.8	2.7	-0.2
親族・知人宅	7.7	7.6	-0.1
ユースホステル・ゲストハウス	5.0	8.4	3.4
その他	3.1	5.4	2.3

資料:「訪日外国人消費動向調査」観光庁

旅行消費額の費目別構成比の変化

・・・消費単価減少の中で宿泊費比率の上昇



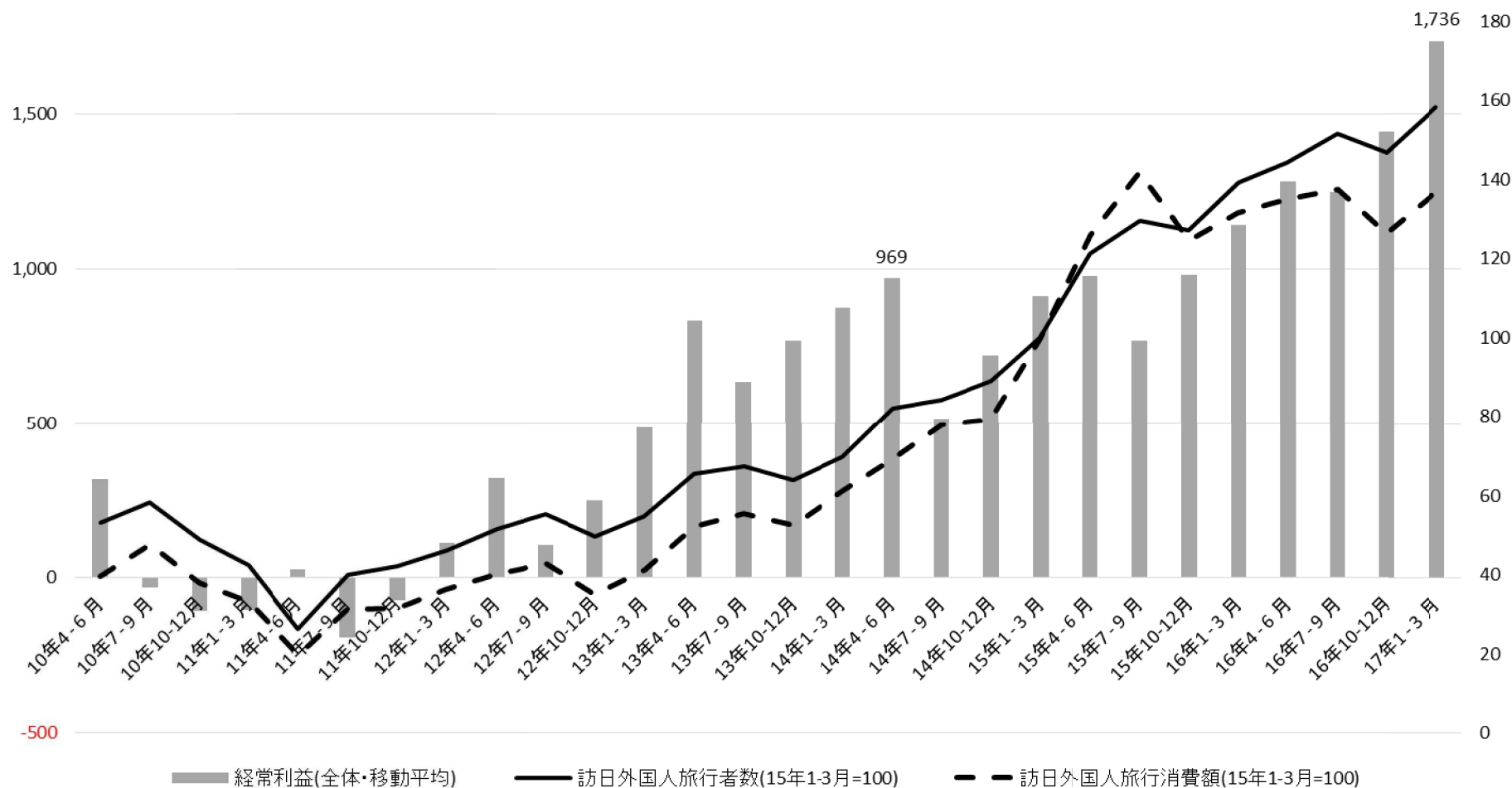
カッコ内は消費額(単位：億円)

資料：「訪日外国人消費動向調査」観光庁

1-3 産業動向～宿泊業を中心に

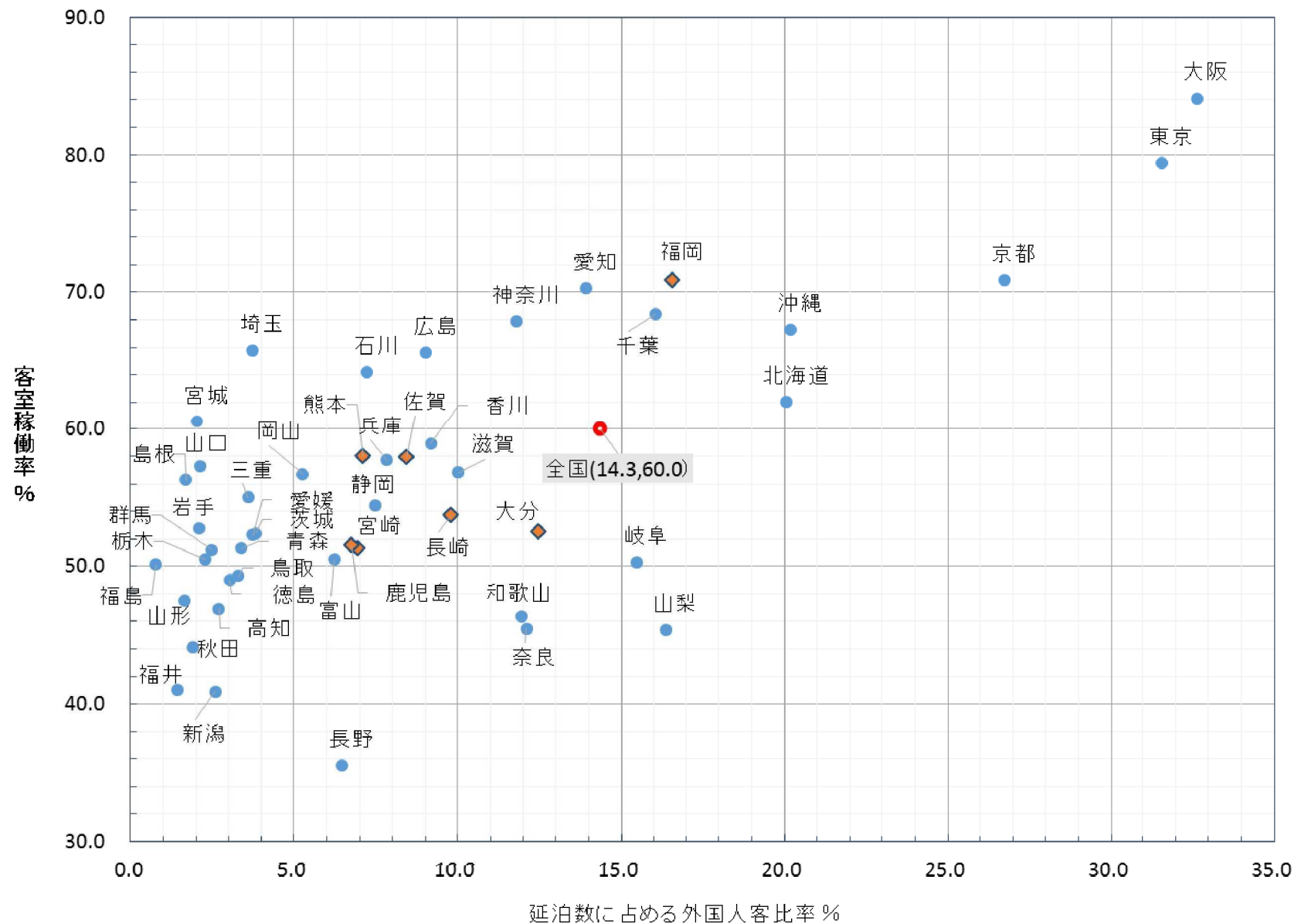
宿泊業 ～インバウンド振興が利益に直結

億円



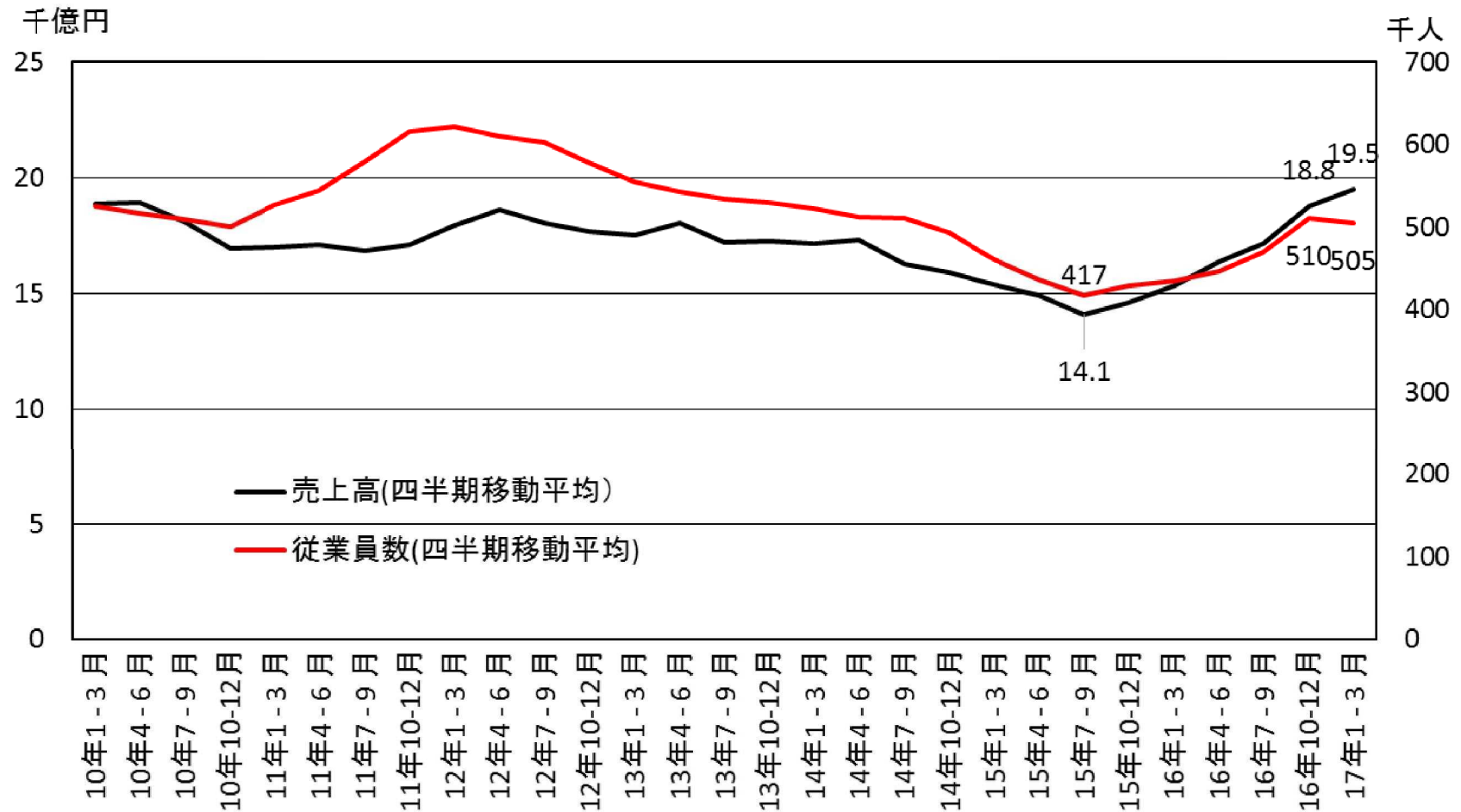
資料：「法人企業統計」財務省。数値は四半期移動平均(5項平均)

外国人客比率が高い県で客室稼働率が高い



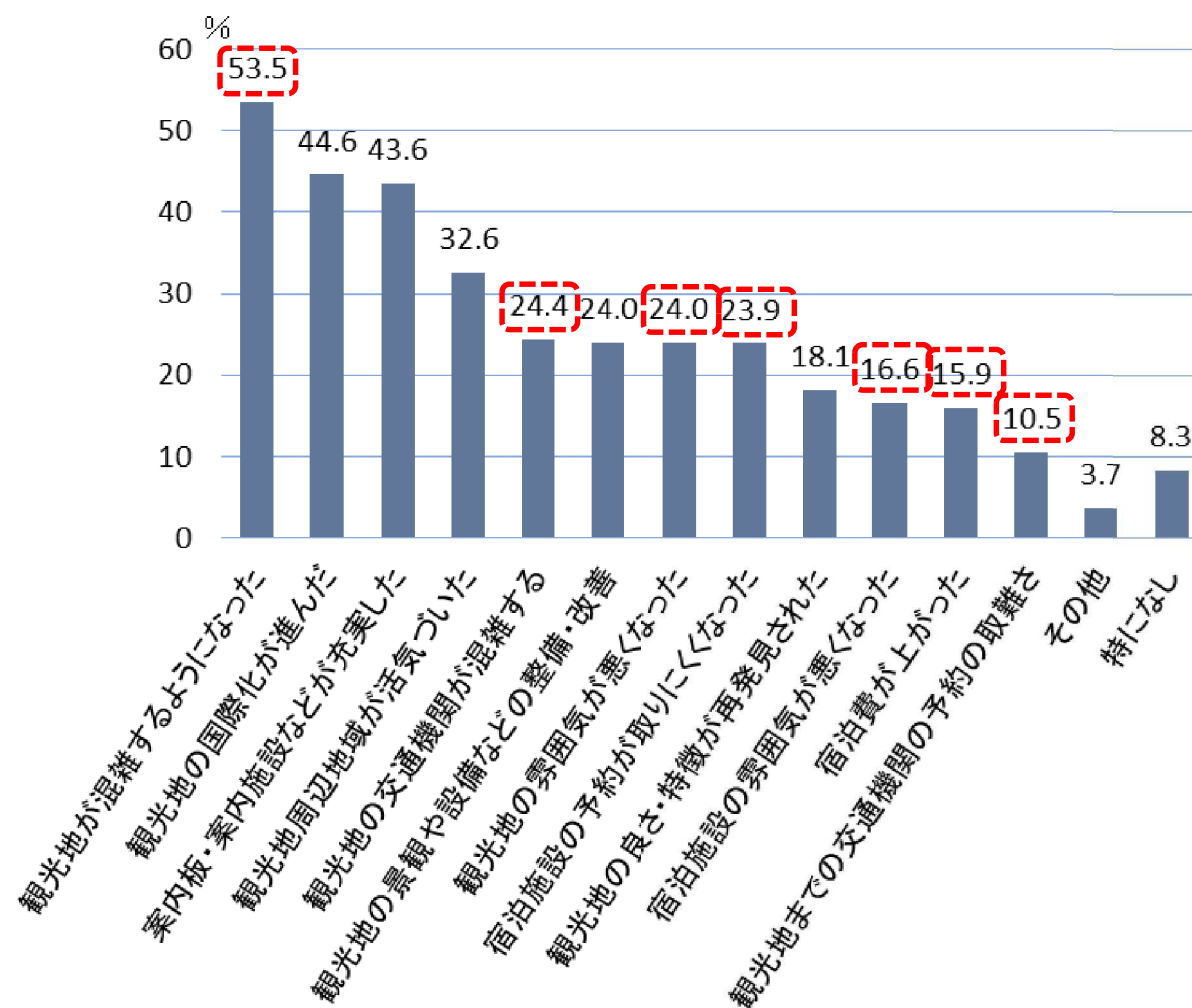
資料：「平成28年宿泊旅行統計」観光庁

従業員数の伸びが売り上げに追いつかず



資料：「法人企業統計」財務省。数値は四半期移動平均(5項平均)

外国人観光客の増加が国内旅行に与える負の影響（日本人の声）



（全国18～79歳の男女1,340名対象。郵送自記式。16年6月実施）

資料：「JTBF旅行意識調査」

2. 経済効果向上の手法

観光消費の経済効果を分解して観ると。。。。

- 観光消費の波及効果を簡単な数式は、
①観光客数 × ②1人あたり消費単価 × ③域内調達率
という相乗効果である。
- ①②③を地域特性を踏まえてバランス良く高めていく必要。
- 持続可能な成長には、観光資源や環境の保全が前提
- 波及の受け皿となる地域経済の自立性・多様性が重要

■外国人客の経済効果向上施策(分類)

①外国人客数 × ②1人あたり消費単価 × ③域内調達率
(集客力) (商品力・販売力) (地域経済力)

①－1資源の活用

①－2新しい魅力作り

①－3新規客層開拓

①－4オフ期の誘客

①－5情報提供・流通
・交通

②－1拠点施設づくり

②－2商品の品揃え

②－3サービスの品揃え・
人材育成

②－4品質向上・ブランド化

③－1域内産品・食材の活用

③－2域内人材の活用

③－3産業興し・異業種連携
・遊休資産の活用

但し、一つの施策が重複的に効果を生むことが多い。

例えば、域内産品・食材の活用は、

①の誘客、②の消費向上、③の域内調達率向上、
のいずれにも関連する。

①外国人客数
(集客力)

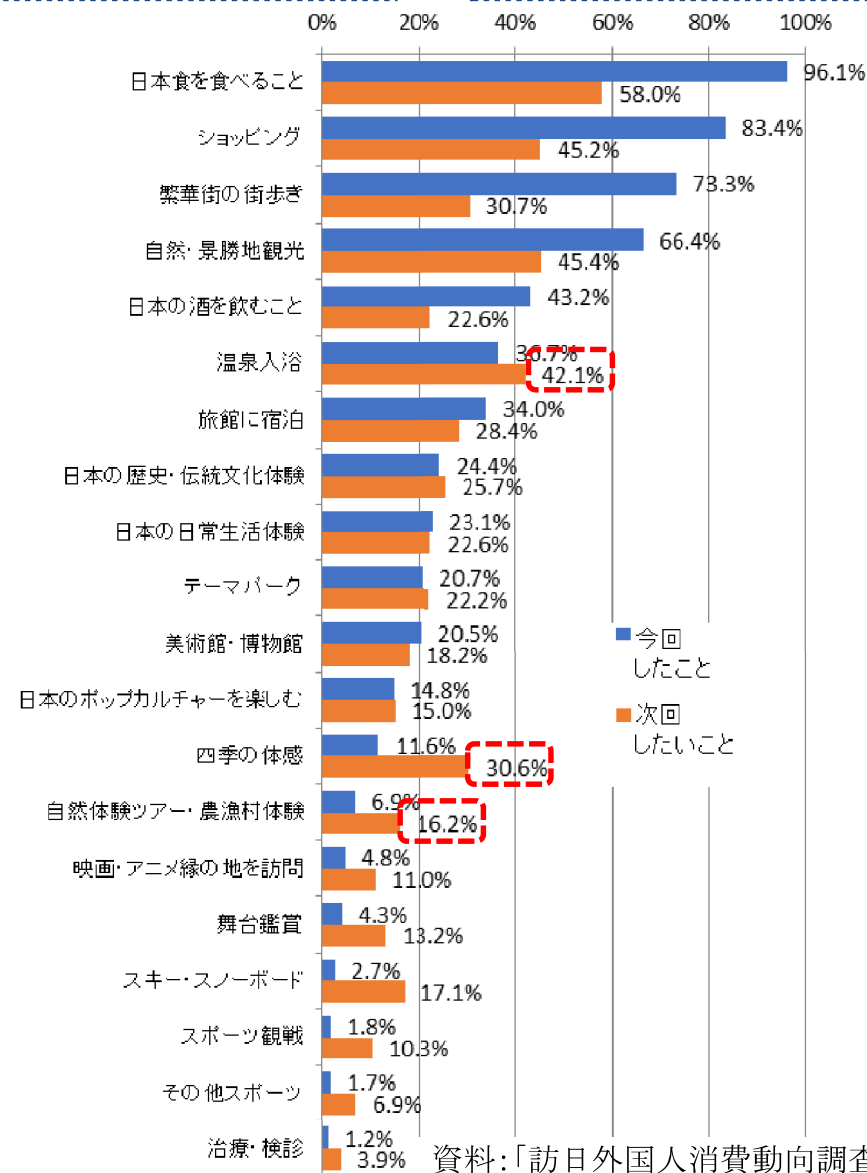
×

②1人あたり消費単価
(商品力・販売力)

×

③域内調達率
(地域経済力)

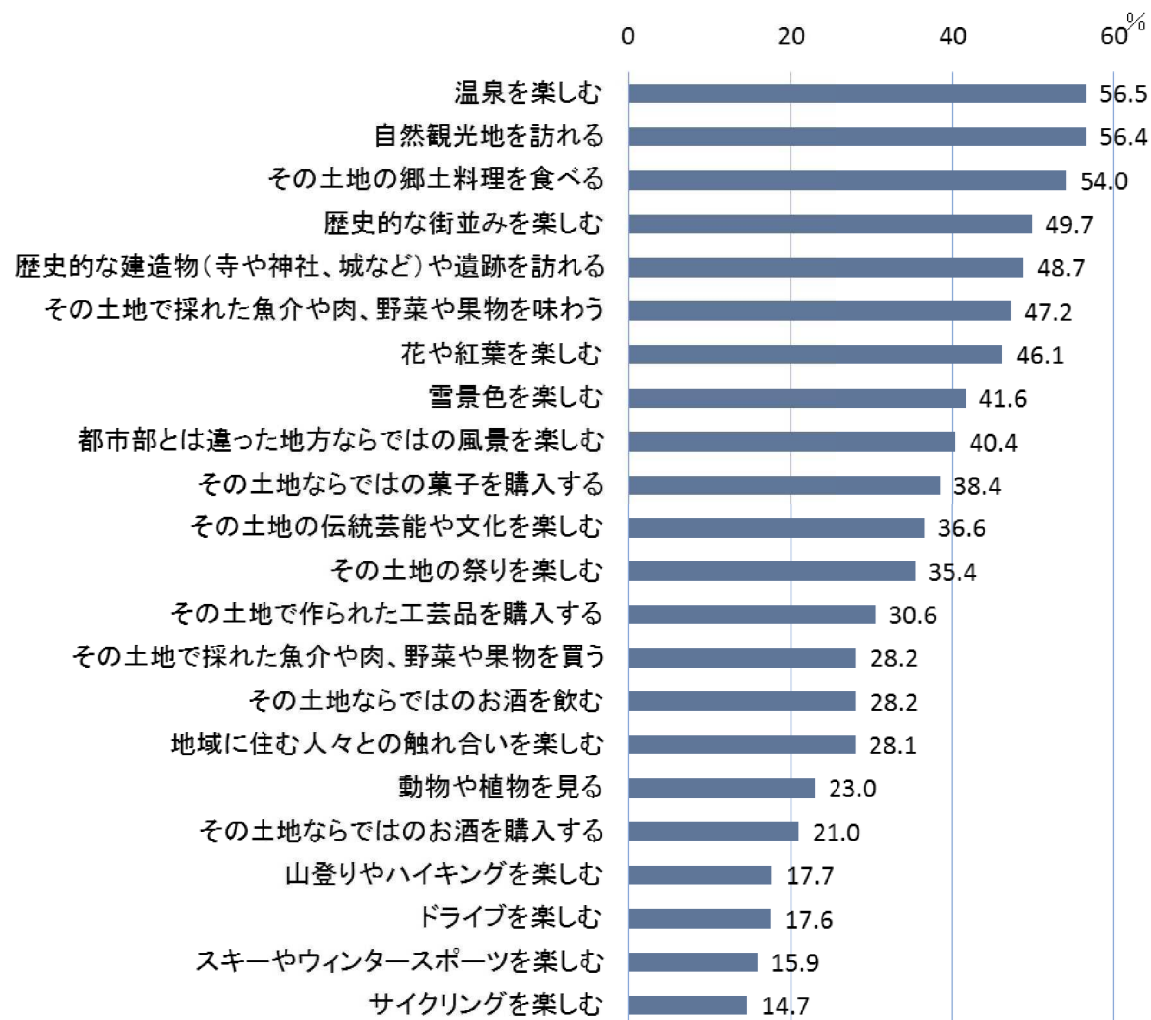
「今回したこと」と
「次回したいこと」



資料:「訪日外国人消費動向調査」観光庁

地方でしたいこと

日本の地方観光地を訪れた際にしたいこと



資料:「DBJ・JTBFアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査(平成29年版)」

$$\boxed{\text{①外国人客数 (集客力)}} \times \boxed{\text{②1人あたり消費単価 (商品力・販売力)}} \times \boxed{\text{③域内調達率 (地域経済力)}}$$

【消費単価向上、域内調達率向上の事例】

宿泊：宿坊（高野山、御岳山）、古民家（京町屋、軒下図書館）、
観光施設のリノベーション（山之内町・八十二銀行・REVIC）、
サービスの質を高め離職を防ぐ労務管理（河口湖・富士吟景）

飲食：かごつまふるさと屋台村、佐野ラーメンのムスリム対応、
宮島のカフェ展開、酒蔵ツーリズム（高山市他）

交通：大阪周遊パス、九州レンタカードライブ

体験：ナイトライフ（新橋、京都）、宮島の伝建地区、郷土料理体験（高山市）

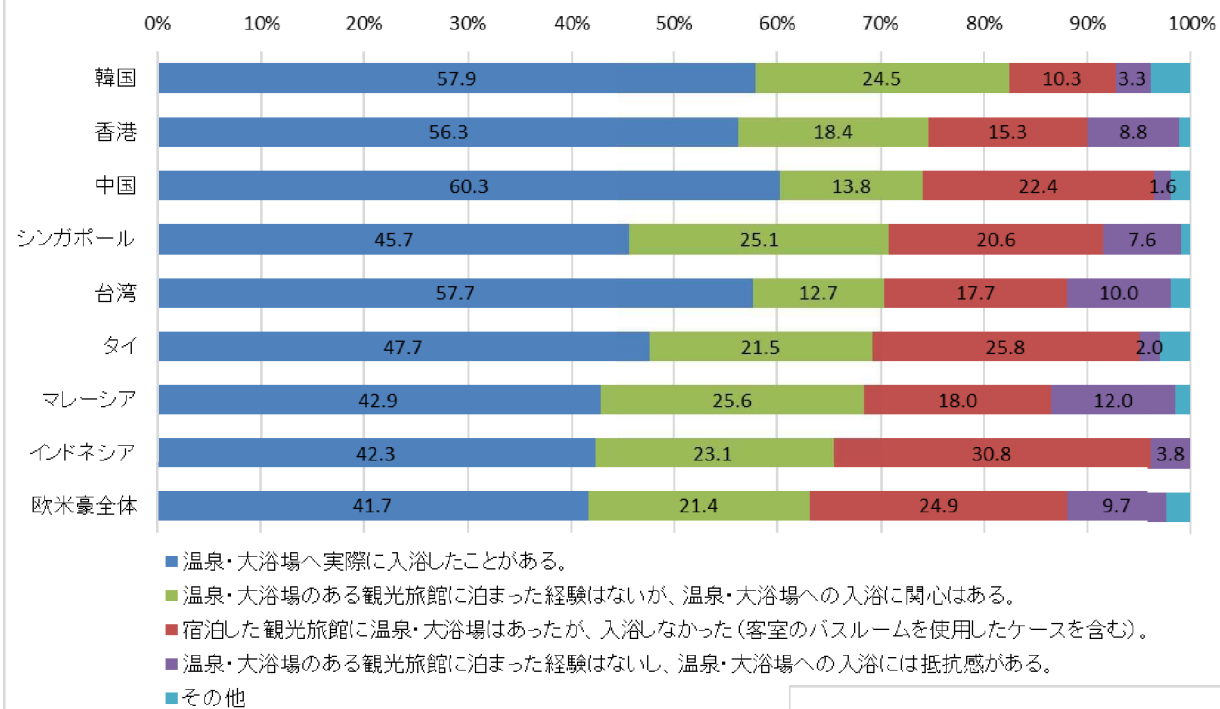
買物：商店街（クルーズ客向けのコンシェルジュ（神戸元町商店街）、
外国人講師による接客講習（品川区）

『インバウンドの消費促進と地域経済活性化（仮）』ぎょうせい。18年4月刊行予定

3. 大分インバウンドの可能性

- 温泉文化を伝える工夫とインタープリター
- 歴史文化資源、宿坊・古民家を活かす
- ブランド食材の活用
- 景観を付加価値に
- 福岡からのレンタカー客を誘客
- 韓国以外のマーケット開拓（香港、シンガポールなど）
- 日本人客とのバランスの見極め：宿泊単価の高い客層優先
- ワンストップの交通・観光体験の拠点づくりを
- 別府港クルーズ：日帰りでも高付加価値ツアー商品を
- ラグビーWC：むしろ国内向けPRの場

温泉大浴場への抵抗感



九州訪問への期待：温泉への入浴

